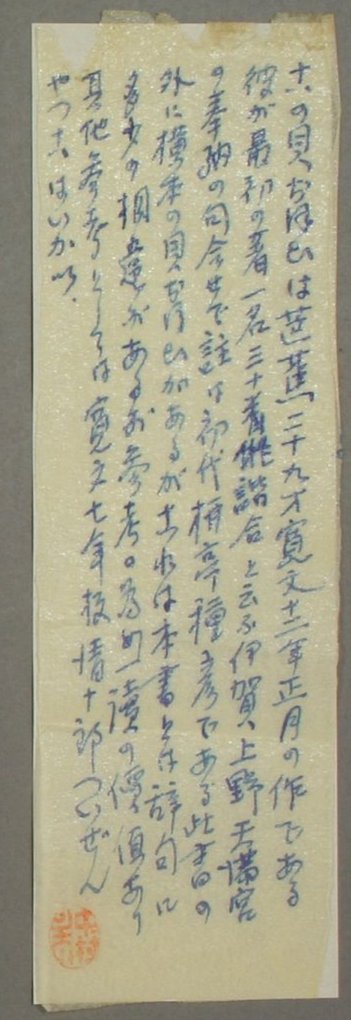
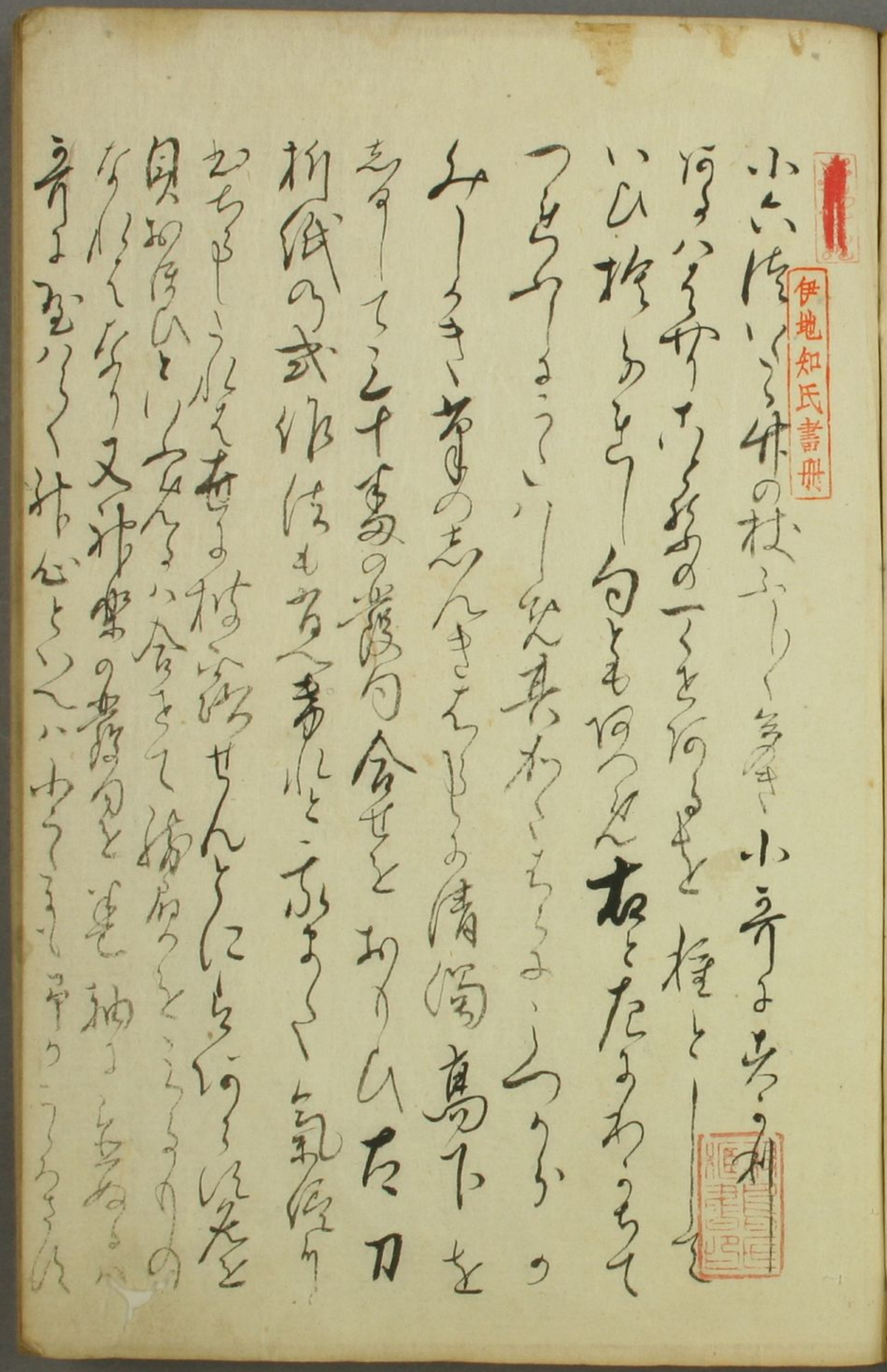
男女修行秘訣

完

伊地知文庫
文庫20
335

文庫20
335


本の見おほえは芭蕉三十九才寛文十二年正月の作である
彼が最初の著一名三十番俳諧合と云ふ伊賀上野天満宮
の奉納の句合せで註は初代桃青門人彦根藩士服部土芳
外に横手の貝寄せがあるが其中は本書と全く句は
多少の相違があるお参考の為に載せる
其他参考としては寛文七年板行十郎つのぜん
やつたはいかが。


伊地知氏書冊

小六陸奥の杖ふりく蓋き小六を
所々名所の一ツを杖とし
いひ捨ての句も所々に
つもるまゝ
みしらぬ者のたんきを清閑高下を
ものして三十番の歌句合をあつめ
折紙の式作法も
如中うたがせ
貝おほひとし
なをなをなを又
音を

意の律をまぼしからぬ筆をあそぶ我人
高渓に偏に問ぶ師のゆるしを待て梓に
ちりばめ侍る

寛文十二年正月廿五日 伊賀上野 松尾氏宗房
釣月軒にしてみづから序す

貝おほひ

三十番誹諧合

松尾氏宗房撰

一番

左勝

にほひあるふや御座ふしころやばかり　之木

右

鹿の顔やふくせいそうくひかあ　我正

左の句ハ句ひも高く御座ふしのきん
けようも然つふゝ覚侍る太もるまき乃
弁らたく大きなる言よりまことに大ゝ言の
ほかもまこと侍れとも其ふ二句とハ
ねん句ひあるよ思さき久に侍りて何
左を為勝

二首

紅梅の花のみやびをふかうして　たゝ紙

右

笑ふ梅とゝのもの　以後の歌　敏足

たの赤いえふくらたの花のくれなゐを
四月ふかなにはなるこゝろ　右梅とゝのもの
のむ以後はたゝみのもきき氣のうにく作れども
おすまを書をい梅の歌句とはの〳〵以後の歌
笑へ作るハ今ハ以後ハ歌句もまつ歌通をき
のひう耳まやとかくたのうん作ハ歌句をき歌
紙とゝとゝたの歌通のうまはは歌句をき歌

二首

たゝ

なくあやげよ他の歌のは句ひら　家部

右歌

敏足もむうゝ民頭のうゝや　坂井上　哉や

たゝ他の歌を加きんのうゝと句ひらはは
うゝなるゝたゝはふうくさえうゝうゝ以
なゝたゝ宮の坂井の敏まもしうう
言ふの歌作の歌句の以後の歌
句時の納来乃ゝはは作うん

[illegible]

たち

とうる橘ハ氣の毒ともらんとやらいや信毒

妻恋のおりひや橘のらうさいけ　知正

橘よりうしとなつみらたの白ばなの
ふりとをちらしたるハ言ばの花つかといふへ
[illegible]

右ハ橘のらうさいとあるやきんのやうなる書意よりハ合ハ
[illegible]

[illegible]

たの句さうる旅も[illegible]

三吉　たち

牛馬の業ふうとうけて同衆　貞好

右

[illegible]

一友

たの句ふるとふるとさかうきく
どつこふくきせる[illegible]
[illegible]

たの句[illegible]
[illegible]
[illegible]

六番　たかい

きみは伽羅の香を焚て　太やみち　正之

たの伽羅の香に　ゆまちから　元貞

只手ぬもとりの香に　たかい

さわらしもくらとも　天の尾ゆしろと作を

なるこたの香さと言ふ　とりの尾

とりの香のつよ　古程とふ　小歌なれい

秀逸の太振　程とふ　れ作ん

七番　たかい

たがらもせん加ら糸なる　篠尾

春風なる作ら　たかい

春風なる作ら　保安

春風の香に長ら　作ら

たて　地春のもも　ゆ

なれ小なる　ら

たまふ小もふ　の作

春風なれと作ら　を

四時ら作ら　春作き

八番　たかい

うとと　吸ん　種るゞ　湖之

種なるとまるせて　たい

おけら　春之　拾蟹子

左ハ雪の竹の冬籠て思ひ出らん仏頂和尚の
居の作意けふおもひ出されたる
右の句題の様にまかせたる定なくといひに流して
うつりて行を待らん様とおもふにかほどきの心も
優なるの中なれども世上なとに一ッまとなり
此句は抜群なる其の句のきを先の先目の
其の吟鐘るの気を得るにも及ばれ
仍左を為勝

九番 左勝

蓮くきる音やおもいく[…]の[…] 素節

右

きて見よ甚べの[…]折[…]ころも 宗房

左の様とちよいてほからぬ作意ハ誠ニ
俳諧の親しくもいふまほしきに右の悪気に
相識ハまさそふて然おもふやと云り あれと両の
仕立もまさしく深かりけらしと思ふもありけり
さる事ハ息て云のまへてもありけるに左の
蓮の[…]も浮となれ[…]ハ甚べ[…]と
ゆかしくてまけの定待りき

十番 左持

帰るさけにほんのつくるの[…] 政定

右

ゆうきたる山の尾[…]ハ[…]のの 和久

左ハ日ねりの[…]の[…]の

[illegible]

たの白い[illegible]なきさまれあるものの[illegible]すんといふ
[illegible]なるもたるひらいけらんのえんとうふうに
なれをおもの[illegible]ていろのかち
ちけをえさうあらんぬをたさとなき利益
なるべし

十番

[illegible]谷の[illegible]たち[illegible]こんろせい　たこ

[illegible]の[illegible]

たとき[illegible]の[illegible]
[illegible]

たなの[illegible]のかひの中の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十番

たち[illegible]

小六月の木[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十三番　たち

右方　木賀の姫うの御　適意

ふるとしのくれんよりの　秋の夜の　義忠

たのむ木賀の姫ぞ　ふるとしの月の立渡りくるしかりし

十四番　たち

右方

かりそめの小野の草の枯るるの　物云

たのみ折る風の音　其入

たとかの縁の師の藏の

[illegible]

十七番

左持

[illegible]の月やいとゝ城ありつゝ真好

右

[illegible]の月の[illegible]仕　持重

[illegible]

[illegible]

十六番

左持

[illegible]の[illegible]　信濃

右

[illegible]の[illegible]　[illegible]

十七番

十八番

左の句大魚と云を梅の朱かゆひよろきれし
るかなるこなるとか集めて譚の元なれ
句作りまへるの出来まさりし
又左の京せ卿のしいさりすきさるの
うし申もとなりと梅のかとおもくれハ
梅なるれつまりしと若然なさし
おもて四の心つちそえハとにて左を勝と
定め申

十九番　左持

ちれ鳥てむせそらんのむ新酒が　蛾月子

右

湿の火を何にたとえん伸る新酒が哉也

右の新酒深ひそれときいてる京なる[illegible]
むせそらんのむ新酒ハかへらとへて潮あまり
のさうろ句作也
右の句湿の火とこひとおもとて何にたとえの伸
[illegible]
[illegible]
[illegible]
もしつなりるにまく

二十番　左勝

席をしもうつろや小牡丹　諸躍

右

如ま席や毛々毛々桜さそ毛むりし　宗房

左の言句小牡丹とこなり[illegible]て[illegible]ハ

かの紫の上なとのいへる源氏物語にて[illegible]康の
けしきとおもひつ[illegible]合され
たるにて[illegible]おのかまへるにて[illegible]と
なさけある[illegible]の[illegible]かしこくおもひしれる[illegible]の
句とも言へけれは[illegible]
もなし
右の句は[illegible]
[illegible]

二十一番 左
佐野源の妻のかたちもこ[illegible]萩の[illegible] 宜竜
右 勝
みそ萩や[illegible]長い[illegible]の 石口

左萩と源の妻といへるとおもひし 唄ひなさけ[illegible]を
[illegible]萩の[illegible]を長いと[illegible] 考て
[illegible]の[illegible]を[illegible]いてこそ[illegible]長き[illegible]
[illegible]と[illegible]ひてなし合[illegible]たりの[illegible]
[illegible]こと思てかつさたいらいわるや申さん

二十二番 左
[illegible]かけて[illegible]たいの[illegible]の[illegible] 三木
右 勝
[illegible]と[illegible]の[illegible]の[illegible] 紋笠
左の句[illegible]
右の句[illegible]
[illegible]

[illegible]

二十五番　たかお　鈴林

[illegible]

なるるの雨まつの雨かとぬるるみ道をいかの
かちをや定めんむ

二十四番　たかお　鈴林

[illegible]

加賀白の武のちんぐり足とうた　立寿

たの間の酔ひまつ[illegible]
足元ふらつく酔て[illegible]
[illegible]
以ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

二十四番

[illegible]

[illegible]

二十五番

[illegible]

二十六番

[illegible]

[illegible]

二十七番
たち

[illegible]

[illegible]

二十八番
たち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十五番　たゝ松

掃除して新年をまつ屋敷
　　右

[illegible]

一入

[illegible]

二十六番　たゝ松

犬の跡やいきんひきぶん外ゝ楽　誓子
　　右

[illegible]

たの天の跡の句まとてる人作の及ぶ事
あり紹いきんひこうそ掃もこそ以社の

おもてさまにもぶ心ばうるに社のおこうの
こゝろもいさこんびごくをかくるゆから
とんするうゝひはくゝおもうゝを行る
なのとうゝの海れひゝくゝよのゝてる
うすきを作ゝまゝまゝよのゝ上のゝゆ
ゝゝとゝかゝ原伊勢参宮のゝ繁
ゝとゝ海のきゝれのゝきゝれゝとゝ